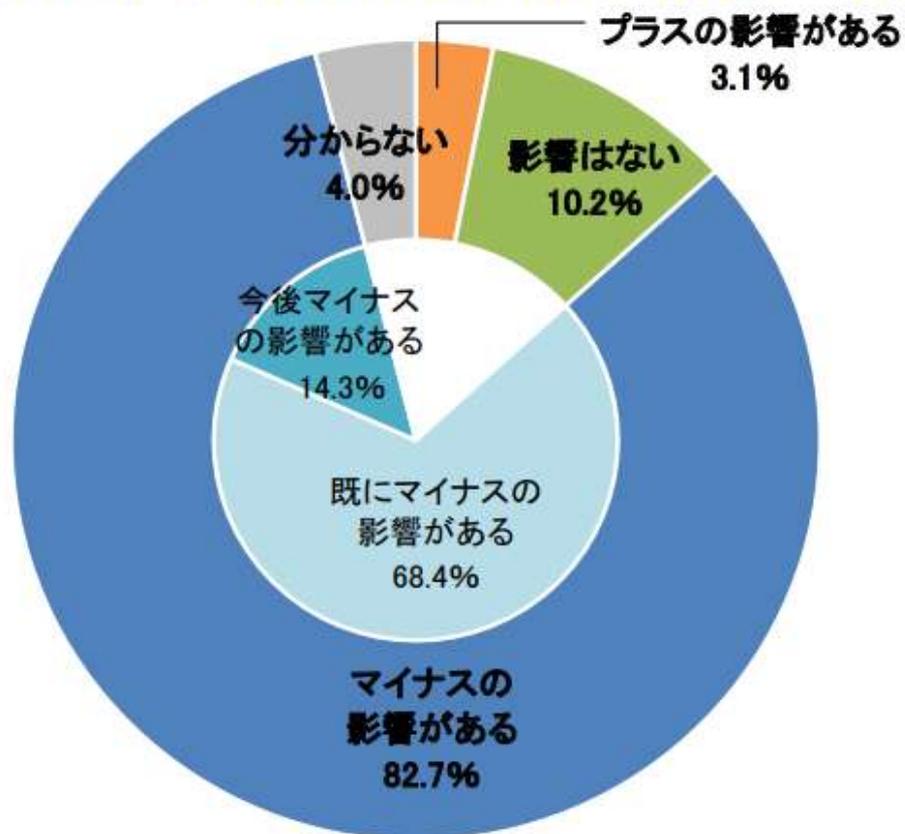


「7割近い企業既に業績悪化 帝国データバンクの調査で判明」

新型コロナウイルス感染症により自社の業績に『既にマイナスの影響がある』とする企業が68.4%に上ることが、帝国データバンクの調査で明らかになった。「今後マイナスの影響がある」14.3%を合わせると、ダメージを受けている企業は8割を超す。7.2%の企業が7月の売上げが昨年の7月に比べ半減以下と見込んでいる。プラスの影響があるとする企業は3.1%にとどまった。

新型コロナウイルス感染症による業績への影響



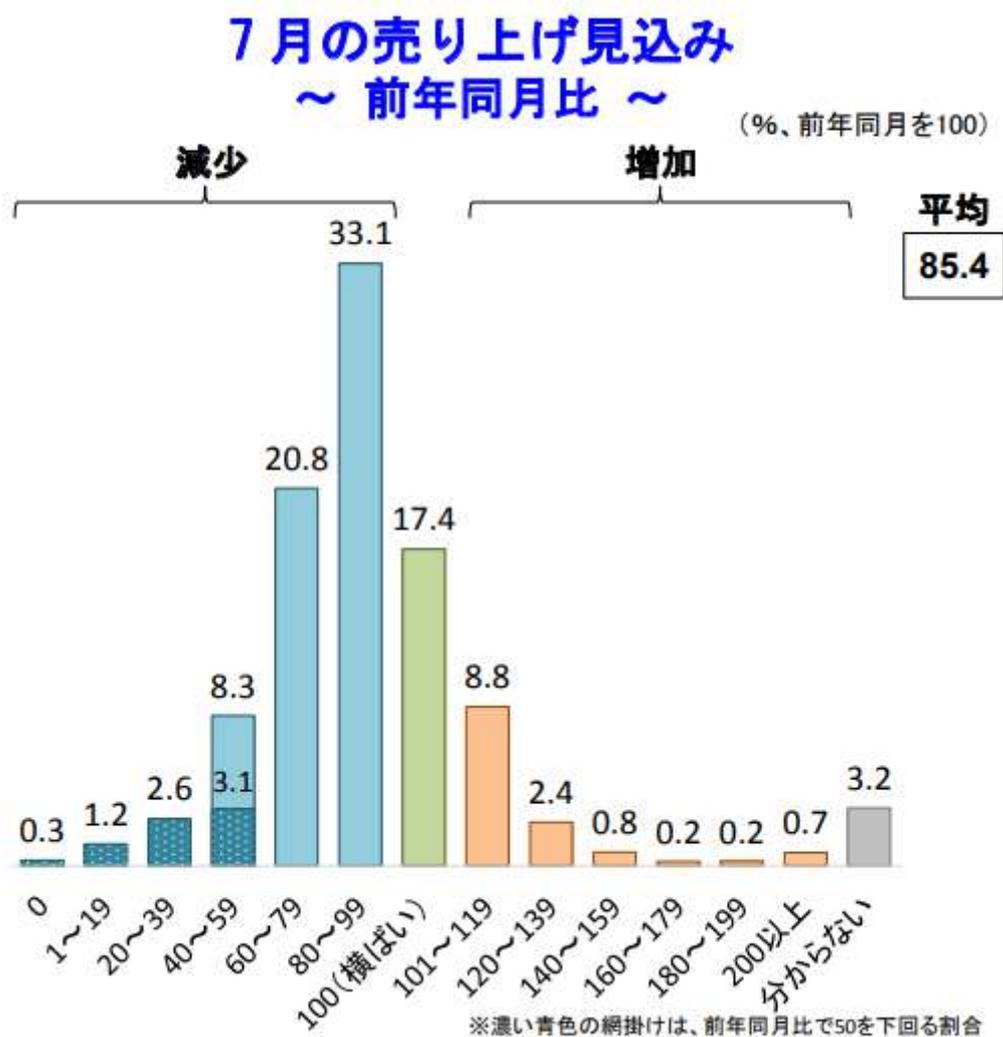
注1:母数は、有効回答企業1万1,732社

(帝国データバンクプレスリリースから)

3日結果が公表された同社の「新型コロナウイルス感染症に対する企業の意識調査」は、7月16～31日に全国2万3,680社を対象に実施され、1万1,732社から回答を得た(回答率49.5%)。調査が行われたのは、5月25日の緊急事態宣言解除に続き、県を越える移動制限も解除された6月19日の後で、日本の社会、経済が段階的に動き始めているとみなさ

れる時期に当たる。

調査の結果、新型コロナウイルス感染症による自社の業績への影響について、『マイナスの影響がある』と見込む企業は 82.7%に上った。このうち「既にマイナスの影響がある」とする企業が 68.4%、「今後マイナスの影響がある」とみる企業が 14.3%となっている。一方、「影響はない」とみる企業は 10.2%、「既にプラスの影響がある」あるいは「今後プラスの影響がある」とする企業は合わせて 3.1%にとどまった。



(帝国データバンクプレスリリースから)

7月の売り上げ見込みについては、3社に2社が昨年7月の売り上げに比べ減少を見込むという結果となっている。このうち半減以下と見込む企業が 7.2%あった。一方、横ばいとみる企業は 17.4%、増加を見込む企業は約 13%にとどまる。売り上げ見込みを全社平均で見ると、昨年7月の 85.4%となっている。

日文 小岩井忠道 (JST 客観日本編集部)

関連サイト

帝国データバンク 「<速報>新型コロナウイルス感染症に対する企業の意識調査 (2020年7月)」

<https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/p200717.pdf>